

記念事業基金に346万円の応募

ありがとうございます

昨年募集いたしました、30周年記念事業基金に、539人の方から総額346万2・5千円の寄付をいただきました。ありがとうございます。

中庭にモニュメント

同窓生が製作

集まった基金は、学校の創立30周年記念事業の一環として、中庭整備およびモニュメント建設の資金といたしました。モニュメントの製作者は18回生で彫刻家として活躍中の眞下賢一さんで、昨年6月から7月にかけて校内で製作されました。

作品の名は「明日への一歩」。意志の石を掛け、帆掛け船の形は、生徒たちの社会という海への旅立ちをイメージしたものです。アフリカ産の黒御影石を使用し、表面の磨き具合により、色の濃淡が出されています。大きさは、高さ、幅ともに3メートルほど。土台の部分も含めると、かなり大きなものとなりました。本館と中館の間の中庭の東南の隅（昇降口の西）に設置され、整備された中庭の重要なアクセントとなっています。（表紙および最終ページの写真をご覧ください。）

製作者覚え書き

大自然を母に持ち、圧倒的な存在感を有する石を今回のモニュメントの素材に用いるのは、一言西高という最良の環境の中で自我を形成し、果立つていった多くの卒業生、そして在校生の姿と石との間に多くの共通点を見出したからである。

フォルムにおいては、諸先輩の築いた伝統を踏まえつつも、現状に甘えることなく新たな可能性を模索し未来へ翔立とうとする現在の西高の姿をイメージした。この石彫モニュメントは、翼であり、波打つ大海に臨む船であり、風を受けとめて堂々と胸を張った帆の姿なのである。



モニュメントの小型模型と眞下さん（中日新聞提供）

転任された先生のお言葉

なつかしき12年

可児郁雄

私はこの4月の教職員の人事異動により県立津島東高校へ転勤となり、12年間お世話になった一言西高校を去ることになりました。思い出せば、私が一言西高校に赴任したのは昭和57年4月で高校入試選抜が一宮高校と組む学校制度の最中でありました。生徒全員が大学進学を目指す進学校として、保護者・中学校の先生方・地域社会からその成果が期待される注目の学校でした。それ故、多くの先生方と協力して学校が一丸となって進学校として充実・発展に苦勞し努力したことが思い出されます。未熟な私にも活躍する場が多く与えられ、進路指導室の整備・充実・資料等の整備や高校3年間の進路指導の工夫・改善に多くの先生方と一緒に知恵をしぼり、携わることが出来たことがなつかしく思い出されます。その時、一緒に苦勞し努力された多くの先生方が、今も多くの一言西高校に残っており、新しい複合選抜制度のもとで、新たにいられた先生方と共に、また次なる発展・充実に向けて一層努力され、苦勞を重ねられている姿に感謝の気持ちでいっぱい。学校も年々整備され、校舎も改修工事でも美しくなり、校庭も木が大きく育ち實実ともに伝統校、地域の中心校として重みを感じさせる学校となってきました。一言西高校でお世話になった先生方、つたない教え方にもかわらず熱心に勉強してくれた生徒のみならず感謝するところも一言

すばらしい西高生

早川泰然

西高校の限りなき発展をお祈りします。

西高への赴任早々、一年の担任をもちしてもらった一月のある日、朝5時のため教室に行ったらだれもいない。慌てて校内を探したら、クラス全員一人も欠けることなく練習の練習のため武道場にいました。輪になって真剣に気持ちを一つにしている様は、それこそ一糸乱れずといった感じで、その場は軽くは叱りましたが、まことにひどく感動した覚えがあります。西高生のもっている集聚力・思いやり・やさしさ等の一端に触れたような気がしました。慣れてしまえばさほどは思わなくなってしまうのですが、西高生は素晴らしい、教師の想像の枠を越えた奥深い、豊かな能力をもっているものと今感じています。この度の定期異動で十七年間お世話になりました西高を去り、尾北高校に転勤致しました。大変良い生徒の皆さんに恵まれ、充実した教師生活を体験させて頂いたことを感謝しています。到らないところが多く、いろいろご迷惑をおかけしたことをお詫びいたします。高校三年間というのは、人生の中で最も多くのものを吸収しやすい、多感で充実した時代です。西高祭や予備会に燃えるのは、生徒の皆さんが西高を愛しているからでしょう。暖かくて連帯感のある中で高校生生活が過ごせたことは、一生の財産になっていると思います。これからも暖かい眼差しを後輩に注いでいただきたい。永い間大変ありがとうございます。